

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 11342017 A

(43) Date of publication of application: 14.12.99

(51) Int. Cl

A45C 11/00

(21) Application number: 10151812

(71) Applicant: KOKUYO CO LTD

(22) Date of filing: 01.06.98

(72) Inventor: YAMASAKI HIROSHI
SONODA TARO

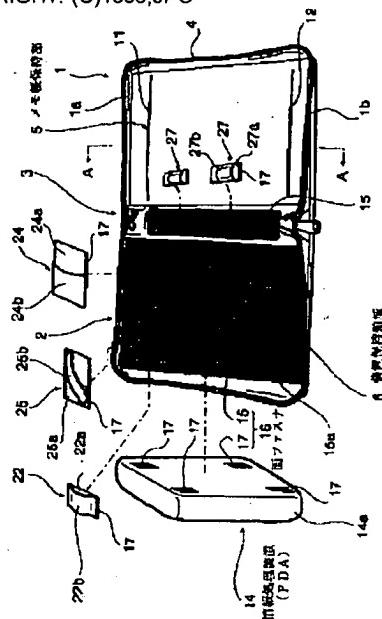
(54) CARRYING CASE FOR INFORMATION
PROCESSOR

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a carrying case for an information processor suitable for housing the information processor or the like by dissolving the conventional demerit that the holding positions or the like of a PDA and the other contents can not be freely customized corresponding to preference and necessity.

SOLUTION: This carrying case is provided with a memo pad holding part 5 for attachably and detachably holding a memo pad 9, a device holding area 6 set at a part other than the memo pad holding part 5, a first hook-and-loop fastener element 15 disposed over the almost entire area of the device holding area 6 and a second hook-and-loop fastener element 17 for constituting a hook- and-loop fastener 16 by cooperating with the first hook-and-loop fastener element 15. Then, the second hook-and-loop fastener element 17 is provided on auxiliary holders 22, 24, 25 and 27 for holding a PDA 14 and the other contents and the PDA 14 and the other contents are attachably and detachably held at the desired positions of the device holding area 6.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-342017

(43)公開日 平成11年(1999)12月14日

(51)Int.Cl.⁶

A 45 C 11/00

識別記号

F I

A 45 C 11/00

E

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全7頁)

(21)出願番号 特願平10-151812

(22)出願日 平成10年(1998)6月1日

(71)出願人 000001351

コクヨ株式会社

大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

(72)発明者 山▲さき▼ 宏

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コ
クヨ株式会社内

(72)発明者 薙田 太郎

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コ
クヨ株式会社内

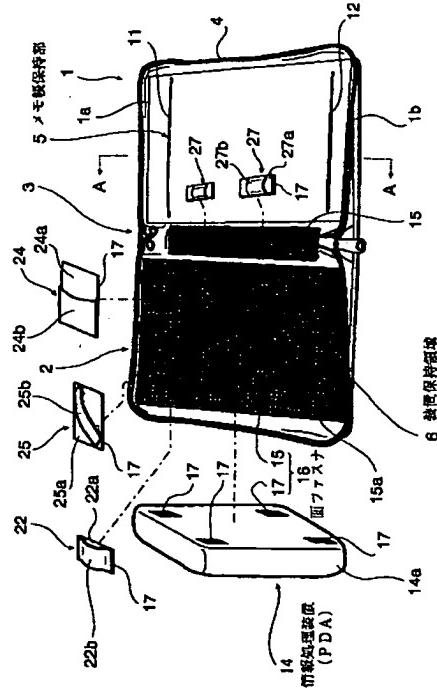
(74)代理人 弁理士 赤澤 一博

(54)【発明の名称】 情報処理装置用携帯ケース

(57)【要約】

【課題】好みや必要性に応じてPDAその他の収容物の保持位置等を自在にカスタマイズすることができないという従来の欠点を解消する。

【解決手段】メモ帳9を着脱可能に保持するためのメモ帳保持部1と、このメモ帳保持部1以外の部位に設定された装置保持領域6と、この装置保持領域6に略全域に亘って配設された第1の面状ファスナエレメント15と、この第1の面状ファスナエレメント15と協働して面ファスナ16を構成する第2の面状ファスナエレメント17とを具備してなり、前記第2の面状ファスナエレメント17を、PDA14やその他の収納物を保持する補助ホルダ22, 24, 25, 27に設けておき、前記PDA14その他の収納物を装置保持領域6の所望位置に着脱可能に保持させ得るようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】メモ帳を着脱可能に保持するためのメモ帳保持部と、このメモ帳保持部以外の部位に設定された装置保持領域と、この装置保持領域に略全域に亘って配設された第1の面状ファスナエレメントと、この第1の面状ファスナエレメントと協働して面ファスナを構成する第2の面状ファスナエレメントとを具備してなり、前記第2の面状ファスナエレメントを、少なくとも収納すべき情報処理装置又は該情報処理装置を保持する装置ホルダに設け、前記情報処理装置又は前記装置ホルダを装置保持領域の所望位置に着脱可能に保持させ得るように構成したことを特徴とする情報処理装置用携帯ケース。

【請求項2】対をなす面状被覆部を背部を介して開閉可能に連接してなるものであって、一方の面状被覆部の内面に前記メモ帳保持部を設けるとともに、他方の面状被覆部の内面略全域を装置保持領域としている請求項1記載の情報処理装置用携帯ケース。

【請求項3】情報処理装置以外の物品を保持させておくための補助ホルダをも備え、該補助ホルダに第2の面状ファスナエレメントを設けている請求項1、又は2記載の情報処理装置用携帯ケース。

【請求項4】背部の内面にも第1の面状ファスナエレメントを備えており、この第1の面状ファスナエレメントに第2の面状ファスナエレメントを備えた補助ホルダを着脱可能に止着し得るようにしている請求項3記載の情報処理装置用携帯ケース。

【請求項5】メモ帳保持部が、二重壁間にメモ帳の背面パッドをスリットを通過させて挿入し得るようにしたものである請求項2、3、又は4記載の情報処理装置用携帯ケース。

【請求項6】一方の面状被覆部における上縁近傍部に、該上縁と略平行に第1のスリットを設けるとともに、下縁近傍部に第2のスリットを設けておき、いずれかのスリットにメモ帳の背面パッドを選択的に挿入し得るようにしている請求項5記載の情報処理装置用携帯ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、PDA等と称される電子手帳タイプの情報処理装置等を収容するのに好適な情報処理装置用携帯ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の携帯ケースとして、情報処理装置を保持するための装置ホルダと、装置以外の物品、例えば、通信用のコード類や名詞、あるいは、電池等を収容しておくための補助ホルダとを備えたものが知られている。また、この種情報処理装置の入力上の弱点を補うために、メモ帳や筆記具等を保持させておくことができるようにしたものも開発されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、従来のもの

は何れも装置ホルダや補助ホルダ、あるいは、メモ帳の保持部等の配設位置が予め定められており、決まった箇所に一定の物品を収納せざるを得ないものとなつてゐる。そのため、使い勝手を向上させるために収納物の保持位置や方向を変えたり、用途に応じて収納物の種類を種々変更するようなことができないという不便さがある。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記の問題点を解決するために、本発明は、メモ帳保持部以外の部位に設定された装置保持領域に、第1の面状ファスナエレメントを略全域に亘って配設するとともに、この第1の面状ファスナエレメントと協働して面ファスナを構成する第2の面状ファスナエレメントを情報処理装置又は該情報処理装置を保持する装置ホルダに設けておき、少なくとも前記情報処理装置を所望の位置に適宜保持させ得るようにしたものである。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明に係る情報処理装置用携帯ケースは、メモ帳を着脱可能に保持するためのメモ帳保持部と、このメモ帳保持部以外の部位に設定された装置保持領域と、この装置保持領域に略全域に亘って配設された第1の面状ファスナエレメントと、この第1の面状ファスナエレメントと協働して面ファスナを構成する第2の面状ファスナエレメントとを具備してなり、前記第2の面状ファスナエレメントを、少なくとも収納すべき情報処理装置又は該情報処理装置を保持する装置ホルダに設け、前記情報処理装置又は前記装置ホルダを装置保持領域の所望位置に着脱可能に保持させ得るように構成したことを特徴とする。

【0006】なお、第1の面状ファスナエレメントの配設態様としては、連続した状態で一面に設けるもの以外に、継状に配設したり、網目状に配設する態様も考えられる。好適な実施の形態としては、対をなす面状被覆部を背部を介して開閉可能に連接してなるものであって、一方の面状被覆部の内面に前記メモ帳保持部を設けるとともに、他方の面状被覆部の内面略全域を装置保持領域としたものを挙げることができる。

【0007】通信コード、携帯電話、名詞、電池、筆記具等種々の物品をも適宜収納することができるようになるには、情報処理装置以外の物品を保持させておくための補助ホルダをも準備しておき、該補助ホルダに第2の面状ファスナエレメントを設けておくのがよい。この場合、さらに多様な配置を実現するには、背部の内面にも第1の面状ファスナエレメントを設けておき、この第1の面状ファスナエレメントに第2の面状ファスナエレメントを備えた補助ホルダを着脱可能に止着し得るようにしておくのがよい。

【0008】メモ帳保持部の具体的な実施形態としては、内壁と外壁間にメモ帳の背面パッドをスリットを通

過させて挿し得るようにしたものを持げることができます。この場合、一方の面状被覆部における上縁近傍部に、該上縁と略平行に第1のスリットを設けるとともに、下縁近傍部に第2のスリットを設けて、いずれかのスリットにメモ帳の背面パッドを選択的に挿し得るようにしておけば、右ききの人も左ききの人も共に快適に使用することが可能となる。

【0009】

【実施例】以下、本発明の一実施例を、図1～図4を参照して説明する。この実施例における情報処理装置用携帯ケースは、図1及び図2に示すように、対をなす面状被覆部1、2を背部3を介して開閉可能に連接してなるものであり、閉成状態において前記両面状被覆部1、2の周縁部同士をスライドファスナ4を介して相互連結させ得るようにしてある。そして、一方の面状被覆部1の内面にメモ帳保持部5を設けるとともに、他方の面状被覆部2の内面略全域を装置保持領域6としている。

【0010】メモ帳保持部5は、二重壁7、8間にメモ帳9の背面パッド9aをスリット11、12を通過させて挿し得るようにしたものである。具体的には、図4に模式的に示すように、一方の面状被覆部1における上縁1aの近傍部に、該上縁1aと略平行に第1のスリット11を設けるとともに、下縁1bの近傍部に第2のスリット12を設けておき、いずれかのスリット11、12にメモ帳9の背面パッド9aを選択的に挿し得るようにしている。すなわち、右利きの人が使用する場合には、第1のスリット11に前記背面パッド9aを挿入し、右側にメモ帳9が位置するようにしておけばよく、左利きの人が使用する場合には、第2のスリット12に背面パッドを挿入し、左側にメモ帳9が位置するようにすればよい。しかして、この明細書において上縁1a及び下縁1bと称しているのは、説明をわかりやすくするために、第2のスリット12にメモ帳9の背面パッド9aを挿入した場合には、前記下縁1bが上になるようにして使用することになる。

【0011】装置保持領域6は、少なくとも情報処理装置たるPDA14を装着しておくための領域であり、第1の面ファスナエレメント15が略全域に亘って設けてある。第1の面ファスナエレメント15は、シート基板15aの表面に図示しない微細なループ部とフック部とを多数混在させて突設したものであり、装置保持領域6に全面的に連続配置してある。なお、この実施例では、前記背部3の内面にも第1の面ファスナエレメント15が設けてある。

【0012】収納すべきPDA14は、例えば、上面に図示しない液晶ディスプレイを有した装置本体14aと、この装置本体14aに蝶着された液晶ディスプレイ保護用の蓋体14bとを備えてなる電子手帳タイプのものであり、前記装置本体14aの底面四隅部に前記第1の面ファスナエレメント15と協働して面ファスナ16

を構成する第2の面ファスナエレメント17を設けている。第2の面ファスナエレメント17は、シート基板の表面に図示しない微細なループ部とフック部とを多数混在させて突設したものであり、そのシート基板の裏面を装置本体14aの底面に貼着してある。

【0013】また、この実施例は、図2及び図3に示すように、前記PDA14以外の物品を保持させておくための補助ホルダ22、24、25、27をも備え、該補助ホルダ22、24、25、27の下面に第2の面状ファスナエレメント17を設けている。具体的には、携帯電話21を保持するための補助ホルダ22、名詞23を収容するための補助ホルダ24、図示しないコード類を保持するための補助ホルダ25、図示しないコード類を保持するための補助ホルダ25、電池26を保持するための補助ホルダ27等を備えており、それらの補助ホルダ22、24、25、27の底面にそれぞれ第2の面状ファスナエレメント17を設けている。

【0014】前記各補助ホルダ22、25、27は、台板22a、25a、27a上に帯状の弾性バンド22b、25b、27bをアーチ状に配設してなるもので、前記弾性バンド22b、25b、27bの弾性力により携帯電話21、図示しないコード類、電池26等を台板22a、25a、27a上に保持し得るようにしたものである。名詞23を収容するための補助ホルダ24は、台板24a上に透明カバー24bの3辺を止着したもので、その透明カバー24bと台板24a間に名詞23を差し込んでおくことができるようにしてある。

【0015】このような構成のものであれば、スライドファスナ4を解除操作して、面状被覆部1、2を開成させることによって、PDA14と、メモ帳9を共に使用することが可能となり、両者の長所を生かしつつ適宜選択利用できることになる。しかも、この携帯ケースは、PDA14の取付位置や取付方向を自在に変更することができ、また、前述した補助ホルダ22、24、25、27についても、必要なものを選択して適宜な位置に取り付けることができる。そのため、PDA14やその他の物品21、23、26の配置態様を使用者の好みや必要性に応じて適宜カスタマイズすることができるとなり、使い勝手を飛躍的に向上させることができ。また、メモ帳9の取付方向を上下逆転させることができるようしてあるため、PDA14等の取付方向を変更できること相まって、右利きの人にも左利きの人にも使いやすいものとなる。

【0016】なお、以上説明した実施例では、情報処理装置たるPDAの底面に直接第2のファスナエレメントを貼着した場合について説明したが、例えば、図5に示すような装置ホルダ31に第2の面ファスナエレメント17を設けておき、この装置ホルダ31を装置保持領域6の所望位置に着脱可能に配設するようにしてもよい。しかし、この装置ホルダ31は、偏平筐形をなすホル

ダ本体31aと、このホルダ本体31aの開口部に張設したゴム等製の弾性バンド31bとを具備してなるもので、このホルダ本体31aの底面に前記第2のファスナエレメント17を設けている。

【0017】補助ホルダの形態や種類についても、前記実施例のものに限定されるものではなく、例えば、図6～図11に示すようなものであってもよい。すなわち、図6に示す補助ホルダ32は、カード類を保持させておくためのもので、台板32a上にカバー32bの3辺を止着したもので、そのカバー32bと台板32a間に図示しないカードを差し込んでおくことができるようにしており、前記台版32aの下面に第2の面ファスナエレメント17が設けてある。図7に示す補助ホルダ33は、図示しない筆記具を保持させておくためのもので、台板33aの上面に筆記具を保持する帯状保持部33bを止着したもので、前記台版33aの下面に第2の面ファスナエレメント17が設けてある。図8に示す補助ホルダ34は、筆箱状のものであり、その底面に第2の面ファスナエレメント17が設けてある。図9～図11に示す補助ホルダ35は、図示しないコード類を巻回状態で保持するためのもので、帯状をなす1本の面ファスナエレメント17を一端部17aにおいて折り返すことにより構成されている。すなわち、帯状をなす面ファスナエレメント17は、その表面17bに図11に模式的に示すように、多数の微細なループ部17dとフック部17eとを混在させて突設したもので、その一端部17a側を背面17c側に折り返して背面17c同士を接合させるとともに、その折り返し部に取手布35aを縫着したものである。この補助ホルダ35は、図9に示す伸張状態から、他端部17f側をコード類等に巻き付け、その他端部17fの表面17bを、前述のように折り返してある一端部17aの表面17bに押しつけることによって、図10に示すようにコード類の保持が完了する。この状態で、この面ファスナエレメント17の表面17bの所要箇所を第1の面ファスナエレメント15に押しつけることによって、該補助ホルダ35全体を第1の面ファスナエレメント15の所望箇所に止着することができる。

【0018】なお、以上の説明では、第1の面ファスナエレメントと第2の面ファスナエレメントが、共に、ループ部とフック部とを有している場合について説明したが、図9～図11に示す実施例以外のものは、必ずしもこのようなものに限定されるものではない。すなわち、例えば、第1の面ファスナエレメントがループ部のみを有したもので、第2の面ファスナエレメントがフック部のみを有したものにしたり、逆に、第1の面ファスナエレメントがフック部のみを有したもので、第2の面ファスナエレメントがループ部のみを有したものにすることも可能である。

【0019】なお、第1の面状ファスナエレメントの配

置態様は、連続的に配置するものに限定されるものではなく、帯状をなす面状ファスナエレメントを所要の間隔で縞模様状に配置したり、網目状に配置することも可能である。

【0020】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明は、メモ帳保持部と装置保持部とを備え、その装置保持部に少なくとも情報処理装置を保持させているので、メモ帳と情報処理装置を適宜選択使用することが可能であり、お互いの長所を生かした使用形態を探ることができるのは勿論である。しかも、前記情報処理装置を面ファスナを介して装置保持部に着脱可能に保持させるようにしているので、予め定められた位置にしか情報処理装置を保持することができない従来のものに比べて配置の自由度が高く、使用者の好みや必要に応じて使用形態を変更することができ、使い勝手を無理なく向上させることができる。

【0021】特に、情報処理装置のみならず、他の物品を保持するための補助ホルダをも面ファスナを介して装置保持領域の所望位置に装着できるようにしておけば、最適な物品をメモ帳や情報処理装置とともに携帯することができ、使い勝手をさらに向上させることができとなる。また、一方の面状被覆部のおける上縁近傍部に、該上縁と略平行に第1のスリットを設けるとともに、下縁近傍部に第2のスリットを設けて、いずれかのスリットにメモ帳の背面パッドを選択的に挿入し得るようにしておけば、情報処理装置等の取付位置や取付方向を自在に変更できることと相まって、メモ帳を右側に位置させたり、左側に位置させたりすることが自由となる。そのため、右利きの人も左利きの人も共に快適に使用することができる優れた情報処理装置用携帯ケースを提供できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す斜視図。

【図2】同実施例の開成状態を示す分解斜視図。

【図3】同実施例の開成状態を示す斜視図。

【図4】図2のA-A線に沿う模式的な断面説明図。

【図5】本発明の他の実施例を示す斜視図。

【図6】本発明のさらに他の実施例を示す斜視図。

【図7】本発明のさらに他の実施例を示す斜視図。

【図8】本発明のさらに他の実施例を示す斜視図。

【図9】本発明のさらに他の実施例を示す斜視図。

【図10】同実施例の使用状態を示す斜視図。

【図11】同実施例を模式的に示す説明図。

【符号の説明】

1…面状被覆部

2…面状被覆部

3…背部

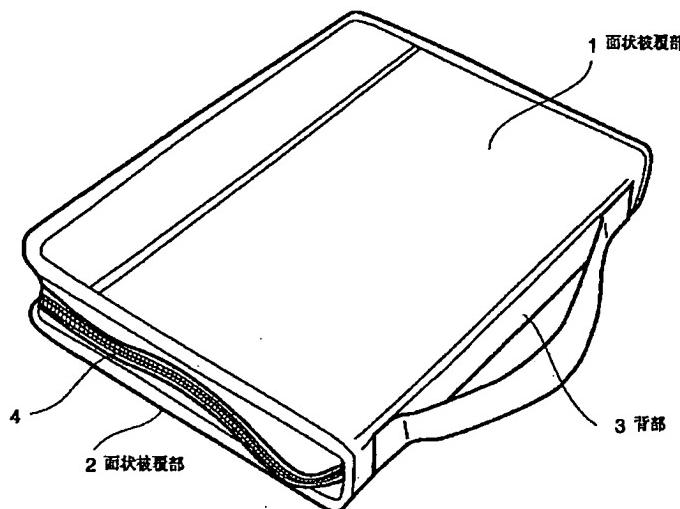
5…メモ帳保持部

6…装置保持領域

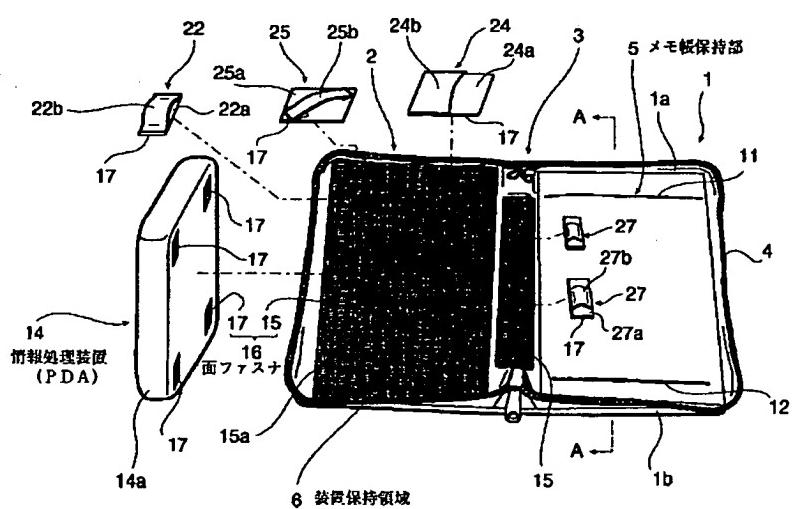
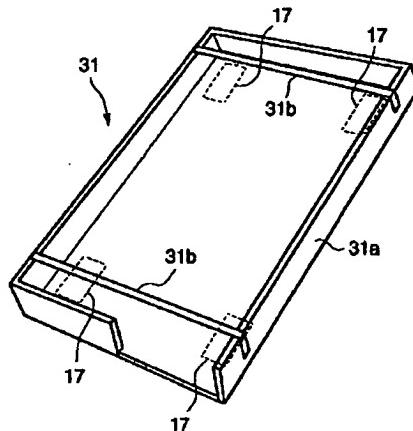
- 9…メモ帳
- 14…情報処理装置（PDA）
- 15…第1の面ファスナエレメント
- 16…面ファスナ
- 17…第2の面ファスナエレメント

22…補助ホルダ
24…補助ホルダ
25…補助ホルダ
27…補助ホルダ

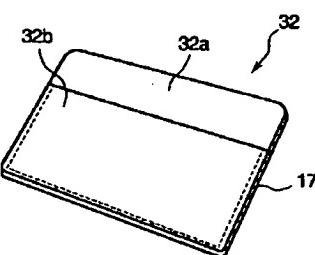
〔図1〕



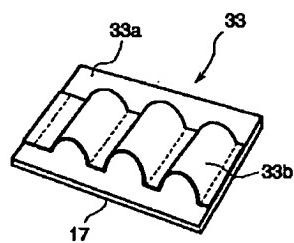
【図5】



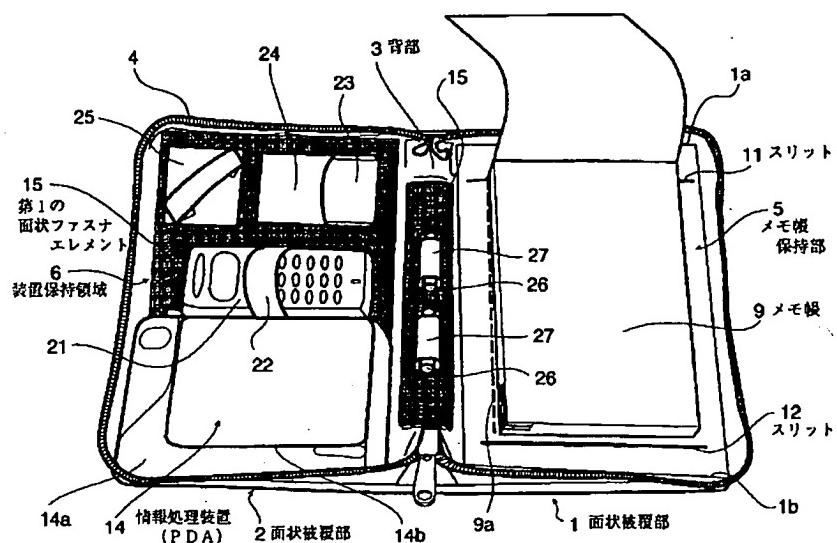
【图6】



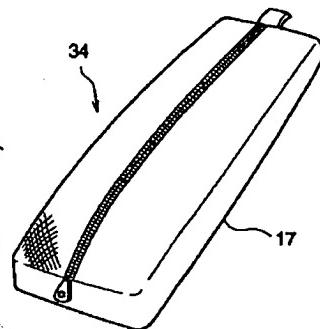
〔図7〕



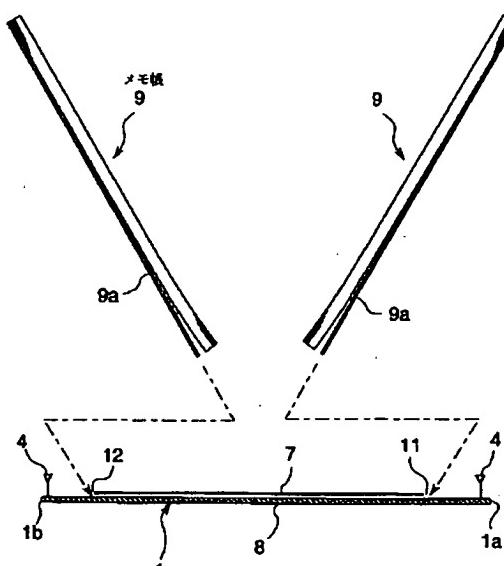
【図3】



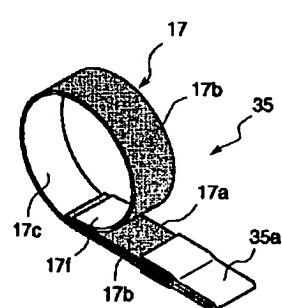
〔四八〕



〔圖4〕



[图10]



【図11】

